

第2回京丹後市・豊岡市合同会議を開催しました

但馬・丹後地域の新たな発展に向けて

市では、京都府京丹後市との共通課題の解決や広域的な取組みなど連携を強め、但馬・丹後地域の一体的な発展を目指すことを目的に昨年度から合同会議を開催しています。

《問合せ》 政策調整課政策調整係



▲両市の観光の連携などを話し合った合同会議(豊岡市民プラザ)

豊岡市と隣接する京丹後市とは人の行き来が盛んに行われていますが、府県の違いから行政間の交流がほとんど行われていないのが現状でした。

しかし、両府県を結ぶ「鳥取豊岡宮津自動車道の整備促進」や観光振興など両市共通の課題を多く抱えていることから、府県を越えた広域的な見地からの取組みや連携を強化していくと、今年3月23日、第1回目の合同会議が京丹後市で開催され、第2回目の合同会議は8月23日、豊岡市民プラザで開催しました。

この会議には両市長をはじめ、両市の幹部職員27人が出席し、第1回目の合同会議で確認された両市の共通課題である「鳥取豊岡宮津自動車道の整備促進」、「コウノトリ但馬空港の利用促進と東京国際空港への直行便」、「北近畿タンゴ鉄道の利用促進」、「観光の連携」の4つのテーマについて、意見交換しました。

意見交換の概要

鳥取豊岡宮津自動車道の整備促進

京丹後市から、当地方は道路網の整備が遅れているので、整備促進に向けて関係機関により一層訴えかけていきたいと意見が出されました。

コウノトリ但馬空港の利用促進と東京国際空港への直行便

京丹後市から、東京国際空港への直行便については、京都府北部の市町においても東京への移動時間が短縮されることから、豊岡市と一緒に実現に向けて活動したいと意見が出されました。

豊岡市からは、東京直行便の実現に向けて、国や航空会社等に対する要望活動を一緒に取り組んでいただきたいと要請しました。

北近畿タンゴ鉄道の利用促進

豊岡市、京丹後市それぞれ

から、S-L(蒸気機関車)やトロツコ列車を走らせたりするイベントについて、提案がありました。

観光の連携

京丹後市から、昔懐かしいボンネットバスに乗って市内の観光コースを300円で周遊する「丹後まほろばぐるり旅」について説明がありました。

豊岡駅から出発するコースなども設定され、市外の利用客増にも取り組んでおり、特に豊岡市民から人気があること、また、ガイドを乗せオーブン講座事業を行っていることなどが説明されました。

豊岡市からは、但馬空港の東京直行便が実現すれば、関東圏の観光客を東京から但馬へ、そして京丹後市のボンネットバスに乗せ、両市の観光スポットを回るような事業が展開できるのではと提案が出されました。

山陰海岸国立公園の ジオパーク構想

山陰海岸国立公園の国連教育科学文化機関（ユネスコ）による世界地質公園「ジオパーク」の認定を目指そうと、「山陰海岸ジオパーク推進協議会」の活動などで共に歩調を合わせながら認定に向けた活動を行い、また関係機関に働きかけ、ジオパーク推進の全国組織をつくってはどうかと提案が出されました。

生活路線バス 維持確保対策

京丹後市から、市内のバス路線の主要網で試験的に運賃を上限200円として値下げしている取組みが説明されました。生活維持路線として赤字補填して運行しているもので、運賃を安くしたことで、よって利用が増え収益が増加し、好調に推移していると紹介されました。

豊岡市・京丹後市 観光コーナー設置

この合同会議がきっかけで豊岡市と京丹後市の観光パンフレットの交換が行われ、本市の観光課の窓口在京丹後市

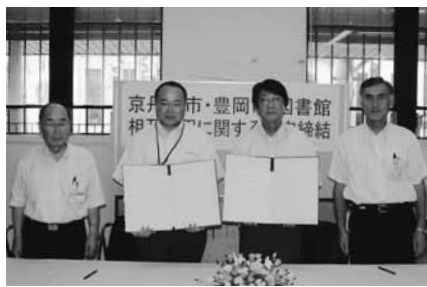
の観光パンフレットコーナーが設置されました。



▲観光パンフレットコーナーの前で握手する中貝市長と中山京丹後市長（右）

豊岡市・京丹後市との 図書館相互利用

豊岡市・京丹後市の両市民が互いの図書館を利用できる協定の締結が行われ、9月1日から相互の図書館の利用ができるようになりました。



▲協定書に署名し、披露する中山市長と中貝市長。立ち会う引野京丹後市教育長（左）と石高教育長（右）

豊岡市の概要

人口 / 91,285人
世帯数 / 31,859世帯
（平成19年8月末現在）
面積 / 679.66km²
位置 / 東経134°49′、
北緯35°32′
（豊岡市役所）
広がり / 東西約39km、
南北約32km

豊岡市は、平成17年4月1日、兵庫県北東部に位置する1市5町（豊岡市、城崎町、竹野町、日高町、出石町、但東町）が合併してできたまちです。

市域の約8割が森林で、北は日本海、東は京都府に接し、中央部には円山川が悠々と流れています。海岸部は山陰海岸国立公園、山岳部は氷ノ山後山那岐山国立公園に指定され、多彩な四季を織りなす自然環境に恵まれています。

平成17年9月には、国指定の特別天然記念物・コウノトリが自然放鳥され、今年5月には、国内の自然界では43年ぶりにヒナが誕生するなど、人里で野生復帰を目指す世界的にも例がない壮大な取組みが着実に進んでいます。

観光業では、全国的に有名な城崎温泉をはじめ、神鍋高原スキー場、但馬の小京都・出石城下町などを有し、多くの観光客が訪れます。また、地場産業は、日本有数のかばんの一大産地であり、出石焼などの生産も行われています。



京丹後市の概要

人口 / 63,333人
世帯数 / 21,929世帯
（平成19年8月末現在）
面積 / 501.84km²
位置 / 東経135°03′、
北緯35°37′
（京丹後市役所）
広がり / 東西約35km、
南北約30km

京丹後市は、平成16年4月1日、京都府北部の丹後半島に位置する6町（峰山町、大宮町、網野町、丹後町、弥栄町、久美浜町）が合併してできたまちです。

沿岸部は、山陰海岸国立公園、若狭湾国定公園に指定され、内陸部には標高400～600mの山々が連なります。

今年1月、京都府内初の「循環・共生・参加まちづくり表彰」（環境大臣表彰）を受賞しました。自然体験を通じ環境を学ぶ「風のがっこう京都」の開催や、太陽光・風力発電とバイオガス発電を組み合わせた新エコエネルギーの研究、鳴き砂やブナ林など自然環境の保全、資源循環型社会を目指した使用済みてんぷら油回収など、「いのち」が輝き資源が循環する、自然と共生した「環境循環都市」の実現に取り組んでいます。

【京丹後市の紹介】市ホームページで「京丹後市ホームページ」にリンクして京丹後市を紹介していますのでご覧ください。